

特  
13  
3269  
5

入船利

梅沢

恒書院

印

堂

院

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

院

堂

恒

書

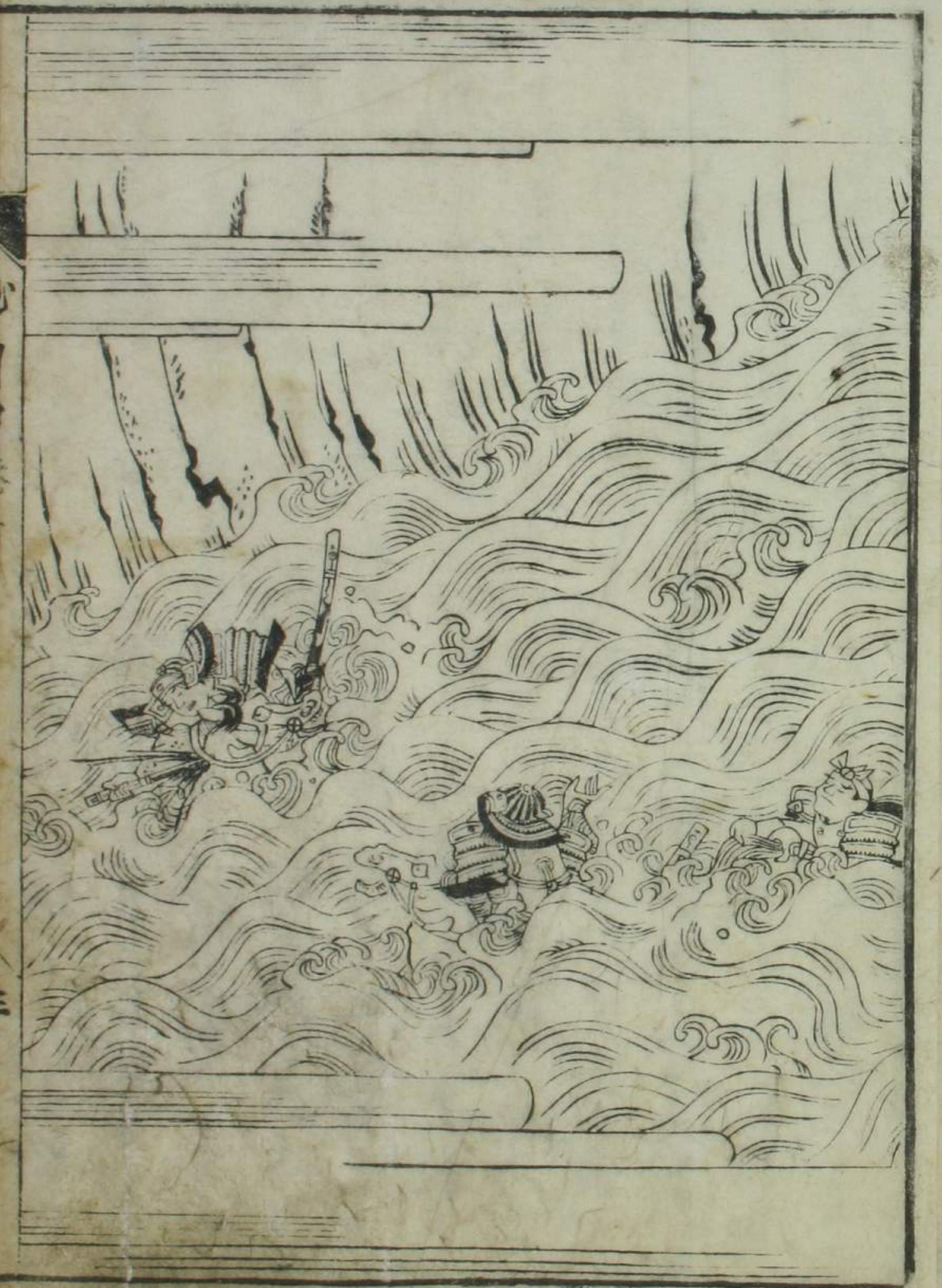
院

堂

恒

急よ敵をばつまうあり。ふちぬくはまとい。  
くま先くふたりかとえ体をあくわい邊川よりをすひ  
ゑくるれをかくぐく宿ねしぐれぬふゆび。それ  
ゆの川岩陰坐すて是隣あ日々もあがるべまく  
やれべ。くるみほほれくぬ人同じくろよ觸見死  
る。嘯るれ軍共これをかくまともあなき死様うかやも  
がをよぎり足すり。さればいんたやくこな。ば時  
川あがる意ア川木川へ入る。まわれ度あれは  
きよぎしが。これもよもよあおがれく死うせり。ば  
意忠孝或勇の志をもどめ圓舟を勧はすよついあ  
そ。紙をまげぬ就寝場所のざくらひ生て物を

きんとおがへど。ちとあバ我もむれと一ふか付記を  
今。ばまづけせのじとあごひもとじひま。ま  
てりの云れどく川木とれふ死ふらう。あれうし  
ま河が山附もむるよ。日景とふづけと麻毛の古連  
き名う。考みはるよ。ひくあらひ。海畜むこに元  
との知すあるぞうすけ。かくはをうけ。もて祕  
く御へ青お車へづらす。も大切うり陽少く。つら  
も立べき。あるわ。かく運車つみて叶はず。陽ふつ  
を汝をも。あはれ死せんも。うれ。そ何それを相  
る事なれとい。がくまふうだく。水すわても  
れひくじ二刀手。とをくづらう。是ハ深とれあ



げとぞうりとぞ。其年の末、浦波兵衛とよおあら川  
井やまのと同様として、人々とおどり、うるるる。和あすある  
えをめよがりのうるる。年方移来を多く、浮城ふかく、きりれん  
日漁くがふきりん。左れ了川ごとをひねじ、庶ものもをね  
みひそりをばく男あり。浪花た海をえくがすしと  
て、自れしきりん。次は、海あやくとまく、ちとまうり、それも  
う四年の朋友川本立節たあつがね、嘗めてあるる。  
いふかくくさんといへる、あくおとせと、向へだ。嘗  
うへそつゆも子供事かて時く、ひゑの半をもじひか  
うりう。つゞきあく、すりゆく、あそびまつやくを、海節  
ち魚をつざちひお里牛たの方すう一林のこもるまふ

みすり。あくまく、廻參あらふゆ。お茶す、川内かのあざ  
くゆりて、川木里ほお通ひだい、ひふゆどろき、さとあくべゆ、セ  
て、無のを象す、徳ト、め。肉入、アリテ、人内ぞうきじの、着達を  
えく。うう、あくまく、奇乘、アリテ、ひち。酒肴、アリテ、  
川木里ほお通節を、廻參、あくひ、前郷の半、海り、  
うう、とがれ、あくへり、くれぞと、り、ひく、代と、う、川内  
すうで、右を軍法の詳論、一々。川木す、あく、いそぐ。  
りれ、前門、す、うれ、あく、失うて、おきて、て、名、あく、松群  
の、大切を、あんと、おり、お、お、義を、まん、ド、死給、珍んじる、の、三、彼  
智、体、勇力を、あげ、男、義を、まん、ド、死給、珍んじる、の、三、彼  
なき、も、ハ、肝、い、虎、ロ、リ、珍ん、お、れ、え、ひ、の、介

うらへりあらそ例歟。ま殊々くれあらそひすのた  
うち。とて磨れ、みへ傳東四節を綱を活用せし時と  
く。久張義代おおーりともと附よのびんと一里も  
武勇の主あらば。と綱をかみとくとすけ平賀おま  
え。それ一生の中かるべげむるきよ綱をめり。  
名を後代ふのこよんと。はふ平家追討の事たり。おうと  
お朝お命を信。徒ねの先よどて生食とよあ馬頭帰りぬ  
ち。と綱を食餘三度乃戴。と。お綱をへやうり。ばゆる  
お頬。と今後とおれ。生餘絆りよなみ小達すべー。お  
え。余のけはなきよおいそひ。と綱は死ゆ。おがく。通  
一や。やまく。御前をまち。満つりのち。おは達。

ね。アレ。日は東をふく。けしゆをうじ。同三節。監綱。殺す  
先。除。逃。義。大。れ。勢。切。よ。あ。而。じ。と。も。く。け。よ。と。か。じ。  
さ。ハ。リ。へ。れ。ら。す。が。れ。駒。縛。を。さ。ゆ。ば。と。綱。縛。糸。伏。と。か。じ  
ち。ち。ろ。ひ。あ。ま。せ。と。監。綱。殺。戸。せ。案。内。を。す。と。浦。人の。ふ。  
ふ。人。無。ゆ。と。志。を。あ。へ。な。く。う。し。と。ば。口。を。ふ。ま。く。比。深。ゆ。と  
う。ふ。と。と。も。一。人の。事。あ。ま。う。を。ね。し。一。行。の。不。義。を。の  
う。と。と。ひ。下。を。と。も。う。得。う。れ。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。  
と。  
と。

のまへうと日は大威勇をもげりて人功業あくとお  
よ諸軍の先隊をつとひりふあくとおりのひのひりまへ  
せ叶ふべくすと。このゆふをちる計略をめぐる。また  
浦人をかくし援兵を敵にたるともなくす。それをや樊秀  
グソヒー大行の田謹を顧むとやうべくんざればけりふ  
つて登城をす。流背運小すりとひいふぐ。よしむと  
が本勇智傑の佑と本見えかふ御りぬあくとやうくれども  
彼の陰謀は漏さず。嗚呼時運齋しりぞ令下途舛を  
しとどごひよひろふ底をなす。ありきの馬づくわねへ  
うらをあり。次第たあつあつへとくわのくわのくわのくわ  
せうろつれきそりー首被けのうかじすあくと



とひへど。おもとまごくねをそりまきりしが。やもりて川木

一首れ詩を詠す

淀水城邊坐古機

江山猶是昔人非  
生存零落皆如此

惟恨平生素志違

黒河傍り吟歌していぐ

無大年と転虜座

英雄一掃戮功新

高名豪富今何在

還對故人信暢神

かくす來いと文すきりしむ。源節ぬま小つぎ宿ゆりと  
旅のつれをと体めりへだ續る事へゆりしむ。ゆりのめせ  
て。あんも已が伏魔のりりれど。次節ぬまを傳ふく。  
尉を極めうととぞうと。東あけ日さとくと。

船あがり。あすりを下りみたゞ。京にこもる御前めくみ  
あんもえど。ととどりて御家御家の諒をも。よもく  
えめぐすれど。のあめりふすう。土をかきあげてあ  
らき卒於笠立あじ。ひとと蓬草しりおひニテギ。  
まこと間くもなきてひとかど。源節ぬまちがあやしも。  
いりき淀の里くふくよきよきて。ととと武勇をほ  
りひき小船きと。ととととととととととととととと  
く。がまみて。差ふきと。とととととととととととと  
船小ゆり。川木黒川が隣郷かつてのぬ人のことをと  
ばねうふのぬ人が子二人あり。一が。かわらみ用が捕獲す  
石州吉永よりとて至へ過塞。ととととととととととと

寧へて、流浪るろう一々を。嘗<sup>たま</sup>即ち坐すわてござひまへかうく  
の事ありて、とゆり。大切あつてはれきし人のよなり。  
さて玉<sup>たま</sup>べ<sup>く</sup>すとて、角つの角つのか抱いだく。後のち小二人とも  
お祖おじいお者ものへまふで、ありのる様さまにまよ、がりま  
ありやう。

○山伏さんぶつの再生せいせい

馬ば鹿か者ものを、尾び州しゆ名な傳つたふ事こと一々す。場尾ばの一いち角つのと、  
穿うりありたり。承うけく流浪るろう一いち角つのとが、とろへきて、とて、真ま  
りりり。すうへ不<sup>ま</sup>通とおありく。秀吉ひでよし云いふ。小日向こひなみを、並ながめ、  
そきト。主ぬし命みことを衣裳いじょう刀とう拵そなへまかしりよかり、洞ほらくと、  
庵あんつゝうひりく。後のち秀吉ひでよし、一角つの伏ふて、の体からつま  
ソギそぎと。すが、も、う、依よて、死しみの家いえを、起おこして、書か状じよう  
つゝされつゝ、と、血あせて、びり。一角つの拂ぬぐて、裁さわく。脚あし、筋つなを、も、  
いきき、胸むねへの、ぎりり。それども、穿うる、と、と、うりやうり、  
く、経おう済さいの、用もちと、ぎりり。依よて、い、う、と、い、そ、ん

やとやく案じてその振りりうが。侍席のふゆでうけかの  
山伏よきひき。いきはいた金兵の用をあへん。キニテ  
ごひそむやとひひ。もと日本のおびよかくれみじ体の  
りさうふを。あとよりもくまくま二行よわろ  
し。おれをさぐ。宿よをそり死體を谷底へなげす。そ  
ねてひよてゆきりふはるまとの振り付。秀吉の状を家老  
をめぬ。されどあ迷ざば入れゆ。家臣のればあります  
をまう伏見の町をづきよ廣き庵あるを往とり。加々み  
やまと音ノタリ。りのうち傍聴。其のからくらみて。親よ  
ひろき人のじとめをりのまよ。ゆくやく家三ノ印  
くふちりね。一ぬ年とるわきどまも懐妊ノタリ。よ



歌ふをきけまほうちど半うきりを。ひすみすに  
せう。又一角ふざきあげて見れどかの峰麻の山やや  
きりうしてねてさくら山伏のうへくらみゆけたり。あぎよ  
おひよ内年月多よさくざぐへ。あみあびよゆけたり。父家  
喰あさひ。ものくすのぞくと廢セモレ。ひのうさづいびん  
よがりをさすまやくはくくわれ。よしよしすり  
すりふとちくくふにきく。よすみすりがよ。幸  
ふくすとてちくくのくもり。母あやー。そつま  
親ちりとてかわくまごと考めちくすをつめ  
うりゆふくうくう。ねとうくうりれ。と一角に  
あれどあれゆへもとま帰りきうひやじゆちー。のよすよ

ゆくと云ひてあらぬへじよ。まごゆゑももと  
山伏のすこちり。一角までひきの山伏り。すまうりて  
事ありありとおりあらゆるもすまうり。  
一角りすこちり。どの方新よの孫良吉がさりすや日もふ  
よけ。じざれすまきか難翁も利家よ。母方のをとれ  
ありすまきで。先づれづれがくのすまきくわぐべとて。今よお  
様。あはれたり物持もて。油くらしきをくわりのよふ  
くわり。よのびすいやあよつて。ゆきのそとくわ  
て。とて。ぬ年と。后りくわづかし。又は。又は  
ゆきのよりむきてからきくわづかあくわす  
き。ゆきのよりむきてからきくわづかあくわす

追跡。一母子とて、さうく父を従ふ。一これで父も子もく  
りて母子ともよ家を出でて。お拂へたり。のよを写ふ  
あり。ひりくよかをとどけて。めよかく。胡そくみよかよたのび  
りくよく。又ほんとうすく起る。きの殊よくうそて。敵を突  
きよの子です。一うちより手按て。又の頭をうちつけ  
を。おれあ陣とこうじゆうて。むちくちうりの子はすま  
うりとうう。いふ解をえみげわん。クリの隣の父を傷  
軍ぬきりく御駕のゆか。ひやつけて。うちもくみよ  
を。逃げ。逃よ討殺へり。されりゆのまが逃へりうとせ。

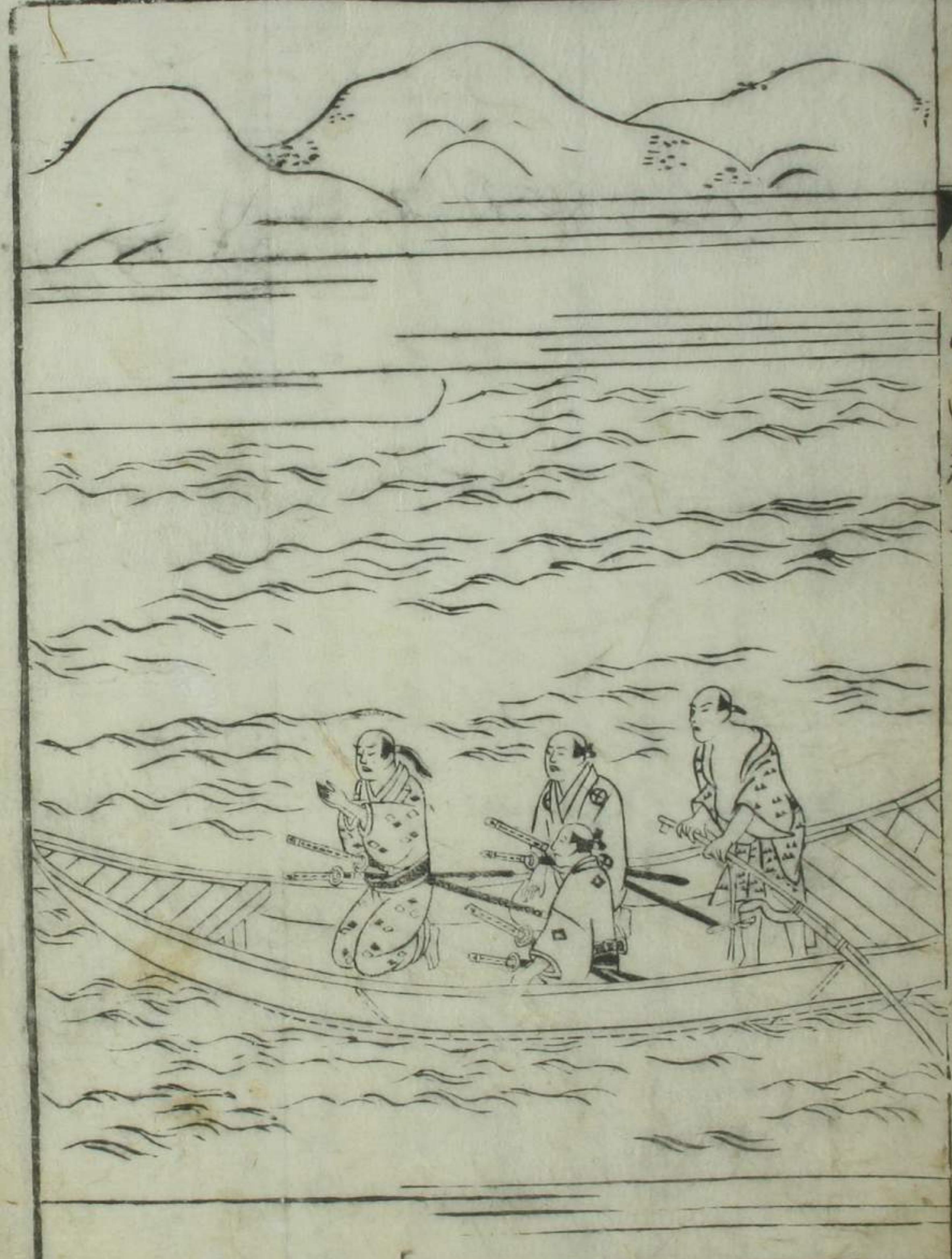
○焼火の奇蹟

後柳原ほの明永歎。軍源義も執筆細川右馬太政え  
威をがくやう。桂原をすくへりと。幾内近山。もとわゆ  
がくらく。京の。神よきりぬ。又時。京の軍源義村。又  
官職をやめ。れ物へをもひ。ひりく。小室がをもて。固防重よ  
がく。大内を。おもを養す。と改め。の。武士。頼かく。ひのゆふ。  
促ひつ。おもをかく。あく。うり。げ。およ十年。もより。年。服を  
送り。せの寝をうへ。ひゆ。或時。おがく。せ。う。。故あり大  
およき。おもをかく。い。兵をあげん。よ。一。よ。の。も。う。て  
よく。の。お。内。く。の。お。だ。を。も。あ。う。ぞ。と。へ。叶。よ。べ。す。い  
ざよ。佐世の。あ。よ。よ。は。く。廟。の。あ。り。き。ぬ。一。殿。を。も。や。す。

ワ。と。か。う。を。あ。く。お。衣。形。を。も。よ。う。す。の。部。生。の。ま。西。

す。よくもあらわべテ、仕事の小舟より御船と  
ちり傳あふる。老翁は必ず仰齋の後あとをもつ  
せんすう。うち周防よりゆんぐりてあよ。海上より風に吹か  
り、逆流もあひかべ。多くていつまづて  
船をねのつゝとせゆりそりのまくすとがと。ま  
まよ。夜すとどりゆのとをもくとせべ。ゆるよ  
何ともうず煙火ひりかくまく。お手こねよかを擧。  
ひのれよさんとくすとまくゆきくちづきくわくと  
りの火あきくまく。まく。お手こねよかを擧。  
れは手やと向ゆよ。船頭とくまく。いのまく。ま  
きて後波のあ焼火の煙火のかくりとまく。いつまづけ

の火とて。せしもよかへり。然るより風  
はれ。故にあいもやうとく。時は秋也。かくす  
す年事。秋月也。嘗て御葉。御葉  
奇の事よ。がめ。をあひ口す。ぎくあく。河  
原。まくら。風をそより波打づる。秋也。  
手強也。風をそより波打づる。秋也。の  
あやよつて。かづき。じよび。特取の。をあ  
まんすへ。ふよき。木の。中。子。の。玉。枝。や。の。よ。る。と。と  
舟。すりあぐ。す。舟。假。船。小。舟。舟。  
歌。を。まわ。れ。一。ゆ。け。り。の。あ。ま。く。く。ゆ。ま。く。く。歌。  
ゆ。ま。く。く。歌。を。ま。く。く。歌。



よりも年々八十ばかりの秋の御宣とおが  
くわんじりお氣樂るゑがましくひよていとふもどり聖よ威  
儀もとれけくわゆる事すかんのひ、ふ老をねねなげ  
新んどのこもる老翁すそもが氣半分もあらずすくこれ  
ありのくわきとく。第平云ふよめくわき翁がをもく  
うがくらふはる。おもむねをかくわやーとおも  
との身をあらわす。おもむねをかくわやーとおも  
考ねられかくとおもむねをかくわやーとおも  
うと。老翁とくいふを天をえがくみぬあり、いざあが  
たれありゆる。翁のくわきいわざかわ所のとふじ  
ろキを。第平云ふ對一あがります。第平これだく不

あくべとふくらやまひつへし。考あひてくわく  
きをば焼少燈院の神亞なり。まづ山燈院の事中をさ  
きよさんりをくげ隱列侍前千波里那義田を焼少燈  
院八百六十代帝一隱院の御宇。御中よりとぞせでわ故  
しゆすすがりと大山燈院とよし。おまそとぞうふされば右  
おの細よあひ。太波山をくべ一舟をくべがくんと。又ハ引  
傳り霧國と東和を年へざらん時ゆと。山燈院かづり城を  
立てもう一景久年中。後多病はらのゆよ流されまくよ  
内を。浴とゆくは浴もく聞あきて。帝入湯度取すとふ

あやまつてすよ。帝に御承知よりありて即ち  
あがめより、新鴻守の沖にあはれ  
あきらめをうへて、ふけ

あつれい新鴻守よ伴  
あらはりけ

かくまひり  
かくまひり

酒  
火  
燒  
燶

酒  
酒  
酒  
酒

酒

詩

御身侍（みこし）がちくと保（ほ）の浦（うら）より夕（ゆ）夕（ゆ）れど帝（てい）廟（廟）爲（爲）穩（のん）  
男（おとこ）やれ事（こと）身（み）絆（ばん）と保（ほ）の浦（うら）見（み）

隠あげてからぐ。おうとくよの樹はもとより水銀  
すくい。勝はをちぢりぬか。せ佐さやまうては樹の物  
地ハ御神なり。とつみあれりふもだ。お美徳なり。され  
御神の事とうちゆきの一生類み純真が長といひ。而  
一室に神の灵傳す。ひたすらふへり。やうれる佐神庵を  
あぐわかや。すよゆく取つて傳り。隣す下宿も。とが  
と。家平は殊勝の事とぞゆづれゆ。ふと感ト。りへ。さう  
ありと。向へよ。や。されどのせうやも。あれあ  
く物いふ。すれて西まも。おを柳領。一枝をう。一を  
て。大樹を家を駆よ。されど。うだつまのありき  
まうりあや。うれ。のみ。ゆき。う。ゆき。う。ゆき。

してのまゝぞ。老翁のれいをうへり。一す。二年をも。ばあす。せよ。かく。そりを。かく。ふかの。急  
駆あくへ。身を大切に。まことに。そりや。見す。よ。夕湯  
みぬぐり。あらまき。まく。ゆ。寝べ。と。いと。あを。の。草平云。と。ま  
り。と。まく。りて。わざの。ゆ。あ。の。手。か。り。も。く。セ。タ。と。な。  
き。も。ま。す。こ。所。ゆ。す。と。金。を。ゆ。く。ま。く。へ。を  
り。草平云。ま。す。か。く。身。の。せ。い。を。あ。い。い。ゆ。く。ゆ。頭。風。か  
帆。を。も。そ。て。周。防。お。か。く。帰。宿。の。身。た。ぐ。い。立。す。ゆ。草  
く。京。都。お。乱。ま。り。く。め。く。細。川。政。え。死。去。す。ゆ。草  
く。間。か。ま。與。時。ふ。う。と。草。平。云。を。う。り。立。る。後。業。中。か。ゆ。の  
軍。勢。を。備。す。と。よ。所。し。も。し。ね。軍。軍。澄。細。川。達。え  
ざ。う。と。だ。

を。退。兵。一。その。方。の。強。敵。を。ま。さ。ぐ。終。よ。之。卷。立。年。七  
封。平。云。往。夷。大。の。軍。よ。再。任。一。ゆ。し。太。閏。い。封。興。を。と。い  
く。管。領。よ。任。一。ゆ。り。り。草。平。云。あ。と。い。び。せ。よ。あ。と。多  
年。の。あ。と。遠。す。ひ。在。位。あ。と。久。な。う。び。これ。ひ。と。す  
禁。大。特。現。の。沖。浦。よ。づ。れ。り。も。う。優。勝。の。ま。さ。う。お。敵。逃  
禁。奉。幣。を。ま。げ。て。賽。一。ゆ。ん。と。お。ざ。く。の。ま。い  
う。あ。れ。と。と。す。う。優。勝。國。ま。で。ハ。海。陸。路。も。う。あ。て。  
あ。も。ち。下。い。ま。と。も。く。輝。澤。る。と。ば。合。戰。改。通。事。い。れ  
ど。一。こ。お。ま。ぎ。れ。て。う。い。る。う。う。う。の。す。つ。小。界。う。う  
ざ。う。と。だ。



卷之三

卷之三

宿の圓鏡破の事よりよびおきくをさやますと  
あらう。あるとまほの事よりう童らはての事とさる  
よ。うへとちく猪一つをもせりての事とさる  
ふくとすとあらましの事とさるふくと  
多め童か。うれちもとがをらむと死  
ふてひよくてかづく。ねりの事と死と  
ひもとがくがく死をり。み童をか  
うて上をかぢくとあくとあきらか。み童いじがくと  
きれとまく事かして猪をもてあくべとくちだまくがりあ  
んのぞ。猿をもてあくやがくとさくとさく。

かきまくらやめうりよみうそすうてまくわ別牛な  
しもかりひりんあらへありとせうたり。この重いもを  
トウシトモヤをく充満するわいはをひびく。おげんと生  
けりえ。おくふうき山中ふる家さざく。ばくま  
りん方角をあらず。にじれとあるとてうとうりゆく。そ  
櫻をくらむ。ねぬくさぎやあくべーととい。かくふた木のあ  
ふをき。いとよからのがり。おの枝葉のしげよかくれ。あ  
木一枝をうきいりがのがく。うきてさきの枝又二つのま  
あらかきよみてたれあら枝をともりてあら。ぐのよ  
めうづく。枝をかくへたれ。たれかくへ  
めの枝ちよかへづく。枝をかくへまも

卷之三

